第37回 中信杯
全京都学童軟式野球
春季大会
12日準決勝、13日決勝

207チームが参加した学童の部が準決勝、決勝を迎える。ベスト4に勝ち残ったのは青谷アクターズ、オール葵ジュニア、三室戸パイレーツスポ少、大開サンクラブジュニアの4チーム。準決勝は12日午後2時、決勝は13日午後1時半から、京都市左京区の岡崎公園野球場で行われる。13日は午前8時半から全日本少年軟式野球京都府大会決勝、正午からジュニアの部決勝も併せて実施される。学童の部準決勝に臨む4チームを紹介する。（メンバー表の◎印は主将、○内数字は学年）

準決勝からの組み合わせ

青谷アクターズ ― 12日14時 ―
オール葵ジュニア ― 13日13時30分 ―
三室戸パイレーツスポ少 ― 12日15時30分 ―
大開サンクラブジュニア

※会場は岡崎公園野球場

頂点目指し　4強激突

先制点守り抜く

青谷アクターズ

ベスト4進出は春夏を通じて初めて。青谷小校区だけでチームをつくる。今年は6年生が6人と少ないが、これまでジュニアの部（4年以下）には出ず、学童の部だけに出場。このため下級生の時から強い相手と対戦してきた選手が多い。

制球のよい村田投手と主将の吉岡捕手のバッテリーを中心にした守備のチーム。先制点を堅守で守り抜くのがスタイル。吉岡監督は「自分を信じ、仲間を信じて、楽しく、思い切ったプレーをしてほしい」と話す。

代表　鈴木　光彦
監督　吉岡　均
選手◎吉岡　佑真⑥
　　岩田　翔⑤
　　村田　賞⑥
　　伊東　優汰⑤
　　大野　翔馬⑥
　　宮崎　一将⑤
　　安部　知晃⑥
　　古川　翔太⑤
　　出口　真斗⑤
　　中北　博人⑥
　　山本　翔太⑤
　　新田　優也⑥
　　図子　優人⑤
　　北川　悟⑤
　　古川　誠也⑤
　　鈴木　寛也⑤
　　新井　恵介⑤

危機にあわてず

オール葵ジュニア

一昨年の夏の大会から春夏の全京都大会はこれで4季連続のベスト16入り。今回は初の4強入りを果たした。

投手陣はエースの白神と中山、小倉の3投手でともに制球も良い。「つないでこつこつ点を取る野球」を目指すが、今大会は打線が好調。

「昨年は高円宮賜杯の府予選にも初出場し、自信がついてきた。ピンチでもあわてなくなった」と中山監督。準決勝以降は「チャレンジャーのつもりで、強い気持ちを持って戦いたい」と闘志を燃やす。

代表　檀　潤一郎
監督　中山　定也
選手◎中山　尚也⑥
　　中白神　康全⑥
　　小倉　広之⑥
　　岡本　卓真⑥
　　小杉　将平⑥
　　須藤　玲紀⑥
　　井上　直人⑥
　　山口　一樹⑥
　　忽那　昌悟⑥
　　木下　皓太⑥
　　市川　海世⑥
　　興津　拓己⑥
　　名古　拓海⑥
　　金川　黎⑥
　　中村　隆亮⑤
　　古川　哲也⑤
　　小澤　尭慈⑤
　　内藤　輝規⑤
　　才木　陸朗⑤
　　崎口　凌央④

足腰鍛えて躍進

三室戸パイレーツスポ少

一昨年夏以来のベスト4進出。冬場は練習開始の1時間前に集まり、三室戸小の周りを走り込んで足腰を鍛えた。山口主将ら3人の投手はコーナーへの制球力が付き、躍進の原動力になった。

投手を中心にした守りのチーム。攻撃は走者をバントで確実に送って、「1点を取る野球」を目指す。現6年生は一昨年夏にジュニアの部で優勝経験があり、山口主将は「気合が入り、みんながひとつになっている。絶対に優勝します」と力強く語る。

代表　山尾　一男
監督　芳中　悟
選手◎山口　翔太郎⑥
　　細見　拓郎⑥
　　辻　康汰⑥
　　小邨　将稀⑥
　　吉村　湧喜⑥
　　徳村　侑哉⑥
　　三上　夢人⑥
　　関田　悠登⑥
　　綾澤　一瑛⑥
　　中谷　謙太⑥
　　仲矢　惇平⑤
　　西　隆徳⑤
　　辻　隆平⑤
　　川島　慎⑤
　　小林　昂平⑤
　　上野　韻都⑤
　　柿崎　惇也⑤
　　高岡　克典⑤
　　上川　将人⑤
　　津田　航汰⑤

基本に忠実貫く

大開サンクラブジュニア

過去、春夏あわせて3度準優勝しているが優勝はまだない。「基本に忠実に、守りでミスをしない」ことが目標。9人が力を合わせて守り、攻撃ではセンター中心に打ち返し、相手のミスを突いて得点する。

投手陣は小前、萩原、紀の3人が交代で登板。紀は打線でも4番を打つ。薮根主将は「みんなをまとめて優勝したい」。井上監督は「同じ宇治支部の三室戸パイレーツにはなんとか勝ちたい。全力で悔いのないプレーを」と語る。

代表　山下　勉
監督　井上　茂
選手◎薮根　舜也⑥
　　上田　卓⑤
　　小前　龍星⑥
　　浅野　航平⑥
　　山本　成輝⑥
　　藤本　達也⑥
　　小川　航平⑥
　　紀　翔太⑥
　　榎本　魁⑥
　　萩原　誠人⑥
　　稲垣　瑛士⑥
　　岸本　大輝⑥
　　大坪　亮介⑥
　　中地　優揮⑥
　　瀧本　真斗⑤
　　塩出　一真⑤
　　藤下　将希⑤
　　佐々木　匠⑤